

◆◆◆通知表◆◆◆

つうちぼ

やなぎ ますみ

つうちぼの じは
かんじばかりで
ぜんぜんなにがなにか わかれへん
なんで こんなもんで
おかあちゃんが おこるんやろ



■今、私たちの学校は二学期制。
なので、子どもたちが「通知表」を手にするのは
もう少し先の10月5日。
私が小学生だった昭和の時代は全国ほとんどの学校が三学期制。
小学生の私も、7月のおわりに一学期の通知表をもらっていました。
終業式の日。
通知表をもらうのは憂鬱、でした。



「よい」「ふつう」「もう少し」の三段階評定。
私はいつも「ふつう」がほとんどで「よい」が少し混ざるといふ、可もなく不可もなくといふ成績。それより問題は所見欄。そこにはこんなことが書かれていました。

- ▲横の席の子にいたずらや意地悪ばかりしています。(1年)
- ▲積極性がありません。そうじなどは裏表があります。(2年)
- ▲思考の面で浅さを感じる。積極性がほしい。(5年)
- ▲発言がたいへん少ない。文章題をもう少しやる必要がある。(6年)

■こんなありさまでしたから、親にみせるのがいやでした。
長い説教が始まります。
なので私は通知表によい思い出は全くありません。
ただ。
そんな通知表でも夏休みの間じゅう、
弟のものと二つ仲よく神棚に大切に供奉されていました。
始業式前日、通知表をランドセルに入れるときに
線香の香りがぷうんと通知表から漂っていたその香りを今でもなんとなく覚えています。
見るのも見せるのもいやだった通知表。
ですが、「大切な、神聖なもの」という気持ちはそれなりにあったのでしょうか。
実家のタンスにはセピア色になった通知表が今でも大切にしまっています。

